

**学校名** 川口市立原町小学校  
**所在地** 川口市飯原町6-50  
**電話** 048-252-4761

## 1 本校の概要

本校は、児童 424 名、「すべての子供の学びを保障する、笑顔あふれる原町小学校」を目指す学校像として、原町小学校でよかったと児童・教職員・保護者が誇りをもち、地域に愛される学校づくりを目指して取り組んでいる。



## 2 本校の実践

### (1) 電子化導入

電子化が整い、非接触での貸出が可能になった。また、クラス担任全員への貸出方法オリエンテーションを行ったことにより、授業での学校図書館の使用頻度が上がった。

### (2) 読み聞かせボランティアの再開

感染対策を充分に行ったうえで、地域の読み聞かせボランティア・保護者による読み聞かせ会を再開することができた。

### (3) ボランティアによる季節の掲示の充実

図書ボランティアの活動が定着し、通常の活動に加えて、季節の掲示物を作成し、児童の心を和ませてくれた。また、学校図書館司書は学習に合わせた掲示物の作成をした。

### (4) 図書委員主体のイベントの開催

おすすめ本のポップ作り・図書ビンゴ・しおり配布・読む処方箋など、図書委員主体で全校児童を巻き込んだイベントの開催をし、読書量を増やした。

### (5) 給食とのコラボレーション

栄養士の依頼により、食育活動の1つとして、献立に合わせた関連本の展示や読み聞かせを行った。



### (6) SDGs 授業サポート

2 学期より約 30 時間にわたり、学校図書館司書が 5 年生の総合的な学習の時間で SDGs 授業補助を行っている。学習で使用する本の選書、発表方法の見本づくりなど担任と相談してサポートを行った。

### (7) 6 年生国語での「ビブリオバトル」開催

グループチャンプを決めるまでの体験版ではあったが、選書からプレゼンの準備まで今後の人生で大切な技術を手に入れようと主体的に取り組む姿が見られた。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

学校図書館掲示を時期に合わせて変えていくことで、掲示に興味をもつ児童から、自学のノートや、季節の掲示などが届くようになった。学校図書館からの様々なアプローチが、児童の読書への興味、調べ学習への意欲を高めている。また、低学年から自発的に始まった自作の絵本が数多く提出された。校長先生の認定を受けると学校図書館での閲覧ができるため、さらに他の児童の意欲を高め、作品は次々増えている。他学年の児童も関心をもち読み込んでいる。

### (2) 課題

前年度の学校図書館の SDGs の掲示をきっかけに、今年度は本格的に 5 年生が総合的な学習の時間で SDGs について深く学び始めた。情報収集しやすく、メディアで取り上げられることも多いため、真剣に取り組む児童が増えた。ボランティアと協力して廃品の活用を行うこともできた。このような授業を今後も継続していけるように、年間計画に 1 単位時間の指導内容、担任や学校図書館司書の役割等、細かな記録を残していくことが必要である。

### (3) おわりに

本校の蔵書数については、まだ十分とは言えない。読み聞かせボランティアの再開で、そのことを再確認している。しかし、児童の学校図書館活用の意欲は高く、自作の絵本などは貸出の希望者が出るほどである。自由な発想で、気持ちの向くままに学習できる学校図書館は、児童の秘めた力を引き出すためにも欠かせない場所である。読書・SDGs は児童と地域をつなぐ大切なツールとなっている。